

\*\*\*ある日の育児日記から\*\*\*

\*\*\*\*\* (16) \*\*\*\*\*

佐藤 和代 \*\*\*

先日、私の祖母が亡くなりました。敬（主人で  
す）は、「人の死を見ることって、今はめったに  
ないんだから、圭にはしっかり見せておこう」と  
言います。私もうんうん、とうなずいたまではよ  
かったのですが…。

「見せる」だけですむことではないのですね。

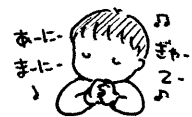
死化粧をした祖母と対面してから、通夜、葬式、  
出棺、火葬…と、いろいろな場面で圭はきさま  
す。「ひいおばあちゃん、どこ？」それに對し  
て、私の答えは「天国へ行ったの」「お棺の中  
よ」「小さくなって、あの壺にはいってるの」「神

様のところ」と、一貫しな  
いことおびたしい。宗教  
をもたない私が、突然神様  
をもちだしても、説得力は  
ありません。

結局、圭がどう理解したかは本人のみぞ知る、  
といったところ。死というものの説明なんてあき  
らめて、祖母の思い出だけ話してやることにしま  
した。明治、大正、昭和と、激動の時代を生きた  
祖母です。語ることはたくさんありますから。  
ところで困ったことがひとつ。お葬式に出て以



来、父方のひいおばあちゃん（94歳で元気！）の話が  
出ると、圭が「まだ死んで  
ないのね？」と確かめるの  
です。圭、それは言っちゃ  
だめ。ひいおばあちゃんの  
前では特にだめよっ！



時Q. 姉はお経あやむ。  
保育園がキリスト教系  
なので、手つきもヘン。